

都立あきる野学園 第一回校内研修・全体会

「令和5年度のおさらいと令和6年度の取り組み」

令和6年5月29日

令和5年度のおさらい

あきる野学園の研修活動について

令和5年度研修

「★生活科」 「★社会科」 「★理科」
のさらなる充実に向けて

令和5年度の取り組みのポイント

① 授業作りにおける重点項目（指導案に表を追加）

→授業者が意識して取り組むこと、取り入れた内容について記載し、授業作りの前提にしていく。

② 単元指導計画のストックを作る

→従来の学習指導案から「単元計画」と「本時の流れ」を分けて、別刷り（ストック）できるようにする。

③ 教材データを共有する



実践を通じて検討・修正された単元計画や教材を財産にしたい

Research

Plan

Do

Check

Action

後期の授業実践の成果と課題

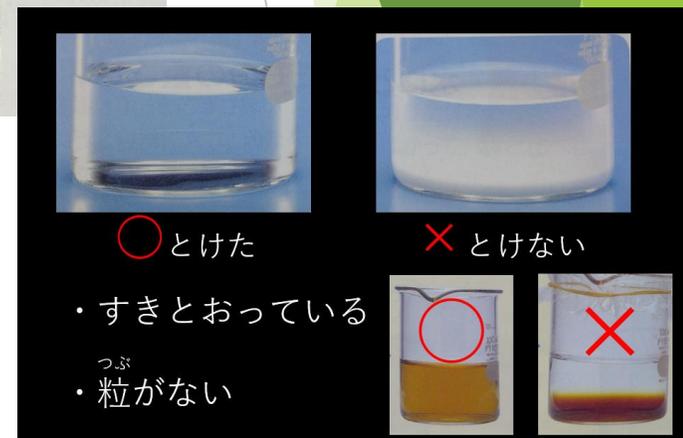
<授業実践の成果>

- 実物を提示、具体物进行操作
- 結果が分かりやすい実験、板書の工夫
- 児童生徒の活動量の確保
- 動画や写真などで児童生徒の経験を補填
- 一人1台端末の活用と体験的な授業



<授業実践の課題>

- 実験結果が想定と違う
- 主体的・対話的で深い学びにつながる授業の工夫



授業作りにおける重点項目を達成することが大切

Research

Plan

Do

Check

Action

後期の授業計画の成果と課題

<授業計画の成果>

- チェックリストの活用（実態把握）
- 板書計画
- シンプルな活動（欲張らない）
- グループニングの工夫
- 保護者との連携（まとめの工夫）

<授業計画の課題>

- 学習指導要領の理解と適切な単元指導計画
(活動重視によるねらいのズレ、時数不足、小中高との連続性など)
- 障害理解、自立活動の視点
- 板書計画
- 教員同士の連携、組織的な授業改善

分かって★楽しい授業のための教材研究

Research

Plan

Do

Check

Action

令和5年度の取り組みのポイント

②単元指導計画のストック

A小学部（知代） → **9本**

A中学部： → **2本**

A高等部： → **7本**

B小学部： → **23本**

B中学部： → **4本**

B高等部： → **11本**

B高・単元指導計画一覧（理科・番外編）

**活用して
いきましょう！**

計 56本

今年度の実践を通して作成した単元指導計画（前期分）を基に、令和6年度の指導計画が立てられる。

Research

Plan

Do

Check

Action

研究指定校として 知的障害の状況や程度に応じた指導の在り方の研究事業

【目的】

- ・ 知的障害特別支援学校の小・中学部の教科指導と各教科等を合わせた指導の関係や考え方、普通学級における自立活動の考え方を整理し、知的障害の状況や程度に応じた指導の在り方を示す。

【具体的な取組】

- ・ 都立知的障害特別支援学校における、各教科等の内容や設定する授業時数の根拠を明らかにしながら、教科指導と各教科等を合わせた指導の関係や考え方を整理する。
- ・ 各教科等を合わせた指導については、カリキュラム・マネジメントの考え方に基づき、設定の理由を明らかにしながら単元を構成できるようにする。

本校には、
これまで積み上げてきた実践（単元一覧から単元指導計画・授業実践）が求められています。

研究テーマ

知的障害の教育課程における「学びの連続性」「共通教育課程」を志向した授業について

仮説を立てた上で両部門同一単元での研究授業を行い、「何を」「いつ」「どのように」「どれくらい」指導するのかを検証・考察し、指導計画や指導方法を充実させる。

日程	内容
6月 6月 7月	第1回 前期研究授業 第2回 前期研究授業 第3回 前期研究授業
8月	夏季全校研修発表会 ・学部ごとの前期研修活動のまとめと発表
12月上旬～中旬	後期研究授業 第1回～3回（6本の研究授業）
2月	午前 講師による授業観察 午後 後期全校研修発表会 ・各部門・学部ごとの研修活動のまとめと発表・講師からの指導助言

授業研究

助言者 筑波大学 川間 健之介 教授

AB両部門で、同単元の授業実践を行い、それを比較検証することによって、

- ・対象の児童・生徒を問わず**共通**のねらいや内容、手立てが明らかになる。
- ・対象の児童・生徒によって**異なる**ねらいや内容、手立てが明らかになる。

→ この2点を単元一覧や年間指導計画に反映させることで、
個に応じた配慮を盛り込んだ、共通教育課程の実施につながる。